

教員養成の目標及び計画

愛知文教大学は「質実有為で宗教的情操を身につけた真人の育成」を建学の精神とし、昭和2年に足立 闇 励 が創設した稲沢高等女学校に端を発します。創立者は、当時社会的に弱い立場に立たされやすい女子に対して、仏教的教育により自立と幸福を目指すという理想を掲げて教育に尽力しました。私たちはこの意志を継承し、大学と大学院の使命・目的及び教育目的を次のように定めています。

愛知文教大学は、教育基本法並びに学校教育法の精神にのっとり、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、もって「質実有為で宗教的情操を身につけた真人の育成」という建学の精神を実現することを使命としています。本学は、建学の精神を現代社会に適応させるべく、「急激に変化する現代社会を生き抜く人材の育成」と読み替え、グローバル化の波にあってもが容易に社会的弱者になりうる現代社会において、その没落を防ぎ、一生を自立的に生き抜く強い心とそれを助ける社会力を備えた人材を育成することを通じ、社会の発展に寄与することを目的とします。

本学人文学部人文学科は、上記の使命・目的を達成するため、自他の文化に関する幅広くかつ深い理解にもとづく人文知の総合的な育成、および実践英語、実践中国語の修得と母語の運用能力向上による真のコミュニケーション力の養成を教育目的として、実践英語と母語の運用能力の向上を目指した学習の成果を生かし、社会に貢献できる実践的な教員を養成するために教職課程を設置しています。

本学の教員養成の理念・目標は、以下のとおりです。

1. 地球的視野に立って行動する資質 日本の文化に関する幅広くかつ深い理解にもとづく人文知の総合的な育成を基に、実践英語、実践中国語の修得と母語の運用能力の向上を図る。これらの豊かな知識や経験を通して、国際社会で必要とされる基本的な資質能力を育て、地球的視野に立って行動できる教員を養成する。
2. 教育者としての使命感や教師の仕事に対する使命感をもち、将来の日本を支える人材を育成するという教職に対する誇りをもって、使命を果たすことのできる教員を養成する。
3. 自立的に生きる力変化の時代を生きるため、常に課題に対する探求力をもち、生涯学び続けることのできる教員を養成する。
4. 広く豊かな教養：国語科や英語科に対する高い専門性と、社会情勢や文化に対する広く豊かな教養をもち、常に自己研鑽に努めることのできる教員を養成する。
5. 教育の専門家としての確かな力量：社会の変化による課題や、子どもの変化を把握する力量を育て、生徒理解力、生徒指導力、集団指導力、学級づくりを行うことのできる教員を養成する。
6. 総合的な人間力：生徒の心に寄り添うことのできる豊かな人間性をもち、社会の一員としての自覚をもち、常識的な行動をとり、豊かな教養を身につけ、相手を思いやることのできる気持ちをもち、礼儀作法を身につけた教員を養成する。

当該目標を達成するための計画

教員養成プログラム ⅩⅩ認定課程:中学校教諭一種免許状(英語)・高等学校教諭一種免許状(英語)

履修年次	区分	到達目標
1年次	教科	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの実力を把握するとともに、自分なりの英語語学習のスタイルを確立する。 ・日常的場面で使える語彙、基礎的コミュニケーション能力を向上する。 ・実践的な学習も含めて日本の伝統文化を学修し、異文化交流のための基礎を身につける ・コミュニケーションのための英語を念頭に、英文法のおさらいと実践力の向上をめざす。 ・TOEICを受験し、TOEICスコア向上を目指す。
	教職	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職概論」の学習を通して、教職の魅力と社会的責任を知る。 ・「教育原論」の学習を通して、教育の理念や教育の歴史を知る。 ・近隣の諸学校にて行われる、教育インターンシップ入門の活動を通して、教職に対する理解を深める。
2年次	教科	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の中の日本文化という視点を獲得し、他国の文化を理解する。 ・TOEICスコアに応じたレベル別のクラスにおいて、英語4技能を向上させる。 ・「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」を通して、ICTの指導法を含めた、英語科の基本的な指導方法を習得する。
	教職	<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育論」の学習を通して、学習指導要領における道徳教育の位置づけや意義を学び、指導方法を習得する。 ・「教育の制度と経営」の学習を通して、教育制度の歴史的な背景を知る。 ・小中学校における教育インターンシップ活動を行い、教職に対する理解を深める。
3年次	教科	<ul style="list-style-type: none"> ・英語圏の文化、文学の学習を通して、英語実践力の向上をめざす。 ・英語力のさらなる向上を図り、TOEICスコア向上を目指す。 ・「英語科教育法Ⅲ・Ⅳ」の学習を通して、指導案の作成と、ICTの指導法を含めた英語科の指導方法を習得する。
	教職	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導論」の学習を通して、生徒指導の意義や目的や方法について理解を深める ・「教育心理学」「教育相談論」の学習を通して、生徒の心理についての知識と生徒理解の知識を深める。 ・「総合的な学習の時間の指導法および特別活動論」の学習を通して、自主的な活動から育成される生徒心理について理解を深める。 ・介護施設や養護学校において、介護体験を行う。 ・小中学校において、教育インターンシップを行い、児童生徒とのふれあいを通して、学習を深める。
4年次	教科	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次まで修得した外国語基礎力・実践力を更に発展させ、英語指導のさらなる向上を目指す。 ・英語力のさらなる向上を図り、TOEICスコア向上を目指す。
	教職	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育実習事前・事後指導」を受け、教育実習の目的と目標を理解し、社会人としてのマナーを習得する。 ・中学校や高等学校において、「教育実習」を行う。 ・「教職実践演習」において、教育現場における体験と学習事項の関連を図りながら、教職実践力の向上を図る。

教員養成プログラム Ⅹ(認定課程:中学校教諭一種免許状(国語)・高等学校教諭一種免許状(国語))

履修年次	区分	到達目標
1年次	教科	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の基本的な語彙力と文章力を高める。 ・論理の構成を工夫し、日本語で適切かつ効果的に表現する能力を身につける。 ・意図した内容を相手に伝える力、グループディスカッションする力などの表現する能力を身につける。 ・中国文学、中国文化・思想について理解を深める。 ・書道や日本の文化の学習を通して、日本の伝統文化についてさらなる知識を深める。
	教職	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職概論」の学習を通して、教職の魅力と社会的責任を知る。 ・「教育原論」の学習を通して、教育の理念や教育の歴史を知る。 ・近隣の諸学校にて行われる、教育インターンシップ入門の活動を通して、教職に対する理解を深める。
2年次	教科	<ul style="list-style-type: none"> ・古典から現代までの文学作品、批評文、詩歌等の学習を通して、論理的な思考力を養う。 ・古代・近代・現代の日本文学の歴史的変遷を理解し、文学としての価値についての理解を深める。 ・漢文学の学習を通して、中国文学・中国文化・思想について理解を深める。 ・「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」を通して、ICTの指導法を含めた、国語科の基本的な指導方法を習得する。
	教職	<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育論」の学習を通して、学習指導要領における道徳教育の位置づけや意義を学び、指導方法を習得する。 ・「教育の制度と経営」の学習を通して、教育制度の歴史的な背景を知る。 ・小中学校における教育インターンシップ活動を行い、教職に対する理解を深める。
3年次	教科	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を利用して自ら参考文献を収集し、それを批判的に踏まえつつ、古典や近代以降の文学作品を分析的に読むことによって、日本の言語文化について理解をする。 ・日本語の成立と展開にの歴史について理解することができる。 ・自分の考えを的確に示して、読み手の興味関心を引くような、文章を作成することができる。 ・「国語科教育法Ⅲ・Ⅳ」の学習を通して、指導案の作成と、ICTの指導法を含めた、指導方法を習得する。
	教職	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導論」の学習を通して、生徒指導の意義や目的や方法について理解を深める ・「教育心理学」「教育相談論」の学習を通して、生徒の心理についての知識と生徒理解の知識を深める。 ・「総合的な学習の時間の指導法および特別活動論」の学習を通して、自主的な活動から育成される生徒心理について理解を深める。 ・介護施設や養護学校において、介護体験を行う。 ・小中学校において、教育インターンシップを行い、児童生徒とのふれあいを通して、学習を深める。
4年次	教科	<ul style="list-style-type: none"> ・日本近・現代文学の背景にある日本人の思考性や日本文化の特徴について考えを深めることができる。 ・教材研究に基づき多様な教育技術を用いて国語科の授業を実践し、省察・改善することができる。
	教職	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育実習事前・事後指導」を受け、教育実習の目的と目標を理解し、社会人としてのマナーを習得する。 ・中学校や高等学校において、「教育実習」を行う。 ・「教職実践演習」において、教育現場における体験と学習事項の関連を図りながら、教職実践力の向上を図る。